

中 学 校

令和 6 年度

教育研究員報告書

外国語

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	2
III	研究の仮説	2
IV	研究の方法	2
V	研究構想図	3
VI	研究の内容	4
VII	検証授業	7
VIII	研究の成果と課題	15

研究主題

聞き手や読み手に配慮しながら、アウトプットができる生徒の育成 ～中学校外国語科における「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を通して～

I 研究主題設定の理由

中学校学習指導要領外国語では、外国語科の目標として、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力」を育成することが求められている。

加えて、『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）（令和3年1月26日）（以下「答申」という。）では、「個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実」させることが学習指導要領の着実な実施のために求められており、その際、「教育課程部会における審議のまとめ」（令和3年1月）で示された、「学校における基盤的なツールとなる ICT も最大限活用しながら、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく育成する」こと、「子供たちの多様な個性を最大限に生かす」ことが求められている。これを踏まえ、研究員所属校での生徒の実態について協議したところ、以下のような生徒の状況が、特に課題として挙げられた。

【コミュニケーションを図る資質・能力について】

- モデル文があれば簡単なやり取りに取り組むことはできるが、場面や相手に配慮した発話をするなど、即興性のあるやり取りをすることに課題がある。
- 発表原稿を作ってスピーチ等の活動に取り組むことはできるが、聞き手に配慮し、相手にとって分かりやすい発表にすることに課題がある。
- 日常的な話題に関して自分の考えや意見を書くことはできるが、社会的な話題について考えたことや感じたことを、読み手に配慮したまとまりのある英文で書いて表現することに課題が見られる。

【「個別最適な学び」と「協働的な学び」について】

- 自分の習熟の程度に応じた学習の取り組み方が分からず、自らすすんで話そうとしたり書こうとしたりすることができていない。
- ペア活動やグループ活動には積極的に取り組むが、自分の学びに還元することにまではつながっていない。

そこで本研究では、研究員所属校の生徒の実態や課題等を踏まえ、デジタル機器等を十分に活用しながら、生徒が自分の習熟の程度に応じた学習課題や学習方法を選択して表現したり、対話的な活動を通して表現の内容や質を高めたりできるようにするなど、中学校外国語科における「個別最適な学び」と「協働的な学び」の視点に基づく指導の工夫を行うこととした。そして、その上で、外国語で「簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力」を育成するものとし、聞き手や読み手に配慮しながら、アウトプット（伝え合ったり、発表したり、書いたりすること）ができる生徒を育成することを目指すこととした。以上の研究の趣旨を踏まえ、研究主題を「聞き手や読み手に配慮しながら、アウトプットができる生徒の育成～中学校外国語科における『個別最適な学び』と『協働的な学び』の充実を通して～」と設定した。

Ⅱ 研究の視点

研究主題を実現するため、以下の二点を研究の柱として設定した。

1 研究の柱①「一人1台端末等を活用した指導の個別化、学習の個性化」

一人1台端末等を活用した多様な学習方法や学習課題を生徒に提示し、生徒の習熟の程度や興味・関心などに応じて生徒自身に選択させることで、個に応じた指導を充実させる。

- デジタル教科書や生成AIを活用させ、生徒が表現力を高められるようにする。
- 教師が発話や記述のモデルをオンライン等で示し、習熟の程度に応じて生徒が参考にできるようにする。
- プレゼンテーション等の言語活動において、生徒一人一人が自分の興味・関心等に応じたテーマを設定し、学習の方向性を決められるようにする。

2 研究の柱②「多様な他者との協働による、表現内容、表現方法の質の向上」

言語活動の中で、生徒同士あるいは生徒と教師など、生徒が多様な他者と協働しながら、目的や場面、状況などに応じて聞き手や読み手に配慮したアウトプットができるようにするための指導を充実させる。

- 生徒のスピーチ原稿や英作文をオンライン等で共有し、参照できるようにすることで生徒一人一人が自分の発話や記述に生かせるようにする。
- 生徒同士で相互にフィードバックをする機会をつくったり、中間指導として教師から生徒にフィードバックを与えたりして、自分の発話や記述の内容を、目的や場面、状況などを踏まえた、聞き手や読み手に配慮した適切なものになっているかという視点から改善できるようにする。

Ⅲ 研究の仮説

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の視点に基づく指導の工夫を行い、その充実を図ることで、聞き手や読み手に配慮しながら、アウトプットができる生徒を育成することができるだろう。

Ⅳ 研究の方法

1 課題の整理と指導方法の検討

生徒の現状と課題を明確にするとともに、中学校学習指導要領解説外国語編等の研究を通じて、課題を解決するための指導方法を検討し、研究主題を設定した。

2 授業実践

検討した指導方法は、研究員所属校において「Ⅱ 研究の視点」に基づき実践した。

3 検証授業及び授業実践を通じて明らかになった成果と課題の整理

「Ⅱ 研究の視点」に基づいた授業実践が「聞き手や読み手に配慮しながら、アウトプットができる生徒」の育成につながるものとなっているか、という視点から、生徒の発話や英作文、振り返りシートを分析し、仮説の検証を行った。また、研究員所属校における授業実践と3回の検証授業の結果を踏まえ、研究の成果と課題をまとめた。

V 研究構想図

「中学校学習指導要領外国語」の目標から

「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力」を育成する。

『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）（中央教育審議会 令和3年1月26日）から

「全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと、協働的な学びを実現し、教育の質の向上を図る必要がある」

研究員所属校における生徒の実態・課題

【コミュニケーションを図る資質・能力について】

- ・ モデル文があれば簡単なやり取りに取り組むことはできるが、場面や相手に配慮した発話をするなど、即興性のあるやり取りをすることに課題がある。
- ・ 発表原稿を作ってスピーチ等の活動に取り組むことはできるが、聞き手に配慮し、相手にとって分かりやすい発表にすることに課題がある。
- ・ 日常的な話題に関して自分の考えや意見を書くことはできるが、社会的な話題について考えたことや感じたことを、読み手に配慮したまとまりのある英文で書いて表現することに課題が見られる。

【「個別最適な学び」と「協働的な学び」について】

- ・ 自分の習熟の程度に応じた学習の取り組み方が分からず、自らすすんで話そうとしたり書こうとしたりすることができていない。
- ・ 対話的な活動には積極的に取り組むが、自分の学びに還元するには至っていない。

【目指す生徒像】

聞き手や読み手に配慮しながらアウトプット（伝え合ったり、発表したり、書いたりすること）ができる生徒

【研究主題】

**聞き手や読み手に配慮しながら、アウトプットができる生徒の育成
～中学校外国語科における「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を通して～**

【研究の仮説】

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の視点に基づく指導の工夫を行い、その充実を図ること
で、聞き手や読み手に配慮しながら、アウトプットができる生徒を育成することができるだろう。

研究の柱①

「一人1台端末等を活用した指導の個別化、学習の個性化」

- 一人1台端末等を活用した多様な学習方法や学習課題を生徒に提示し、生徒の習熟の程度や興味・関心などに応じて生徒自身に選択させることで、個に応じた指導を充実させる。

研究の柱②

「多様な他者との協働による、表現内容、表現方法の質の向上」

- 言語活動の中で、生徒同士あるいは生徒と教師など、生徒が多様な他者と協働しながら、目的や場面、状況などに応じて聞き手や読み手に配慮したアウトプットができるようにするための指導を充実させる。

VI 研究の内容

本研究では、中学校学習指導要領外国語及び研究員所属校での生徒の実態を踏まえ、研究主題である「聞き手や読み手に配慮しながら、アウトプットができる生徒の育成」について、以下のとおり定義して研究を進めることとした。

聞き手や読み手に配慮する	伝える内容を、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを踏まえて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築することで、聞き手や読み手に応じたものとする。
アウトプットができる	コミュニケーションの目的や場面、状況などを踏まえながら、自分の興味・関心に応じて伝えたい内容を考え、積極的に伝え合ったり、発表したり、書いたりする。

また、「答申」にある以下の「個別最適な学び」と「協働的な学び」の視点を生かすとともに、研究員所属校での生徒の実態を踏まえ、後述の「1」「2」に示す「研究の柱①」「研究の柱②」を設定して、これらに基づいた実践に各教育研究員が所属校で取り組むとともに、三つの検証授業を行った。

個別最適な学び	指導の個別化	教師が支援の必要な子供により重点的な指導を行うことなどで効果的な指導を実現することや、子供一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行うこと
	学習の個性化	子供の興味・関心・キャリア形成の方向性等に応じ、探究において課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現を行う等、教師が子供一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供すること
協働的な学び		多様な他者と協働しながら、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成すること

1 研究の柱①「一人1台端末等を活用した指導の個別化、学習の個性化」

(1) 指導の個別化① [学習方法の工夫]

学習活動に取り組ませる際に、教師が、一人1台端末の活用も含めた表現力を高めるための多様な学習方法を生徒に提示し、生徒自身が学習方法を選択できるようにする。

例) 学習プリント / デジタル教科書を活用した教科書本文の音声の再生 / 生成AIを活用した英文の添削 / 英文の読み上げ機能の活用 / その他各アプリケーションの活用

(2) 指導の個別化② [生徒一人一人の特性や学習到達度等に応じた指導の工夫]

『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 中学校外国語(国立教育政策研究所 令和2年3月)を参考に、言語活動を行う際のモデルとなる英文等を習熟の程度に応じStep1からStep3まで3種類用意し、オンライン上または紙媒体で提示することで、Step3を目指しながら習熟の程度に応じて生徒が自らの判断でStepを選択できるようにする。

	主に対象とする生徒	生徒に示す言語活動を行う際のモデルとなる英文等
Step 1	学習の実現状況が「努力を要する」状況と判断される生徒及び「一層努力を要する」状況と判断される生徒	発話や記述の流れのモデルとともに、内容語（自分の考えや意見を表す形容詞、場所や物を表す名詞等、伝えたい情報などを具体的に示す語）を選択形式で示す。その上で、少なくとも1文は生徒自身で考えた内容を入れるようにする。
Step 2	学習の実現状況が「おおむね満足できる」状況と判断される生徒	発話や記述の流れのモデルを示す。内容語を自分で考える。その上で、数文は生徒自身で考えた内容を入れるようにする。
Step 3	学習の実現状況が「十分満足できるもののうち、特に程度が高い」状況と判断される生徒及び「十分満足できる」状況と判断される生徒	発話や記述を考える際に役立つディスコースマーカ（順序よく述べる際の副詞や、自分の意見や理由などを述べる際の接続詞など）や内容語の語群のみを示し、構成や内容については、生徒自身で考えた内容を表現するようにする。
※ 「モデル」とは、目的や場面・状況などに即して自分の考えや意見、理由等を適切に述べる際の流れが記載されているスクリプトのことである。 ※ 「生徒自身で考えた内容」とは、目的や場面、状況などに即して自分の考えや意見、理由等を表現する英文のことを指す。 ※ 具体的な例については各検証授業を参照		

(3) 学習の個性化〔興味・関心に応じた発信したい内容の設定〕

目的や場面、状況などの設定を工夫し、自分の興味・関心や相手に伝えたいことに応じて自分の発信したい内容を考え、表現できるようにする。

2 研究の柱②「多様な他者との協働による、表現内容、表現方法の質の向上」

(1) 他者参照による表現内容の質の向上

言語活動を行う中で、デジタル機器も活用して他者参照（他の生徒の発話や英作文の内容を自分の表現内容の改善を図るために参照すること）できる機会を設ける。また、同じ学習課題に対して、ペアやグループを変えるなどしてアウトプットの回数を増やし（本研究ではアウトプットの各回を Try 1、Try 2、Try 3 とする）、その中で、スピーチ原稿や英作文等の内容を生徒同士で発表し合う機会をつくる。

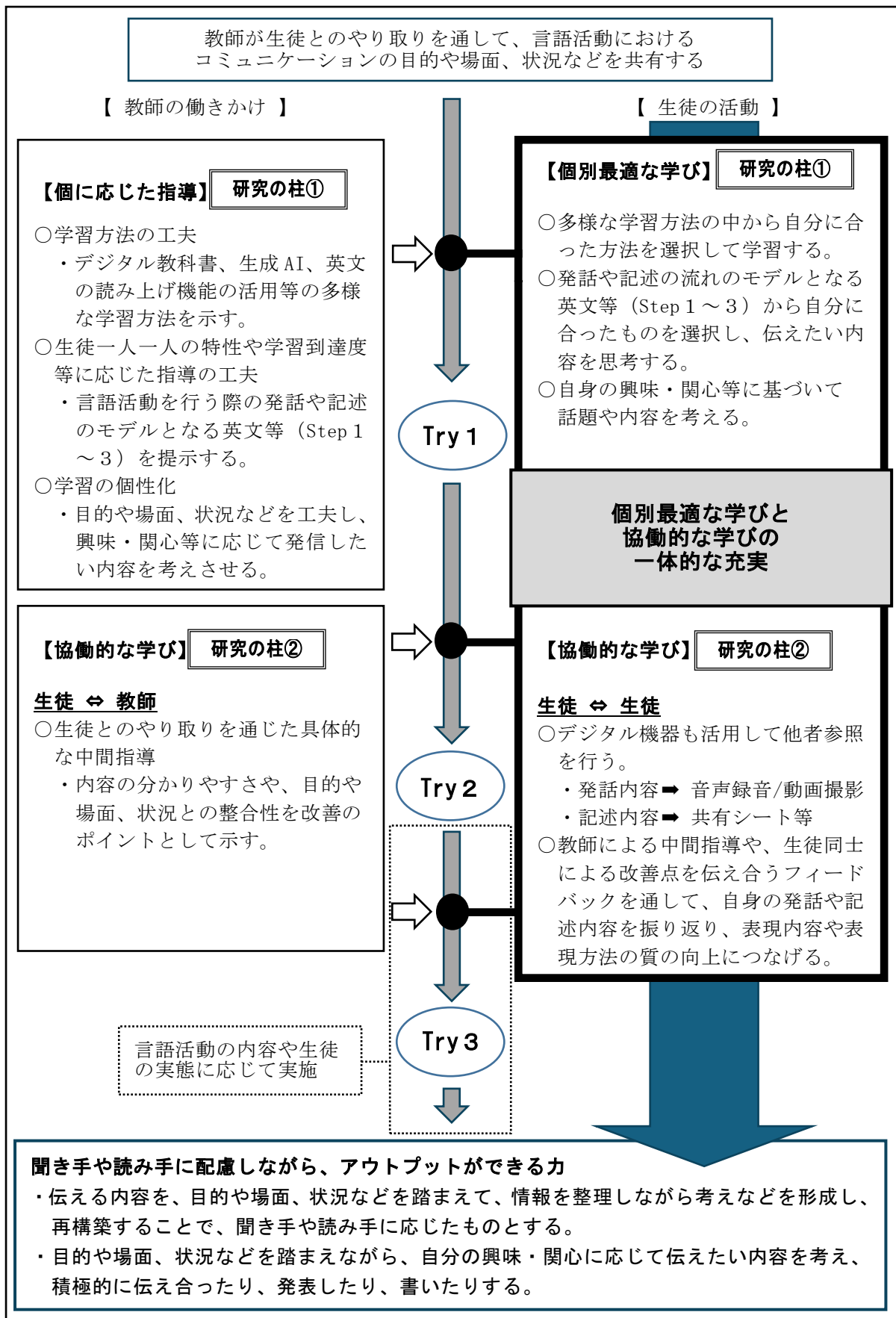
(2) フィードバックの機会の充実による聞き手や読み手に配慮した内容への改善

アウトプットした内容が、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを踏まえて、聞き手や読み手に応じたものとなっていたかという視点で、内容の分かりやすさや、目的や場面、状況との整合性を改善のポイントとして示す。その上で、教師による生徒とのやり取りを通じた具体的な中間指導や、生徒同士による改善点を伝え合うフィードバックを通して、自身の発話や記述内容を振り返り、表現内容や表現方法の質の向上につなげる。

3 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を図る言語活動の指導の流れ

本研究においては、研究の柱①②に基づく教師の働きかけや生徒の活動を1単位時間の言語活動の中で行うこととし、最初のアウトプットである Try 1 の前に、主に「個別最適な学び」の機会を設けて各自で伝えたい内容を考え、Try 1 の後で主に「協働的な学び」の機会を設けて聞き手や読み手に応じた内容への改善を図り、Try 2、Try 3 へとつなげることで、指導の流れを以下のとおり定めて、研究員所属校での実践及び三つの検証授業を行った。

【本研究における「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を図る言語活動の指導の流れ】



VII 検証授業

1 検証授業① 第3学年（「書くこと」の例）

(1) 単元名

Unit 4 “AI Technology and Language” *Here We Go! ENGLISH COURSE 3*（光村図書）

(2) 単元の目標

AIと言語に関する記事を読んでその記事に対する意見を投稿するために、様々な人物が書いた記事や投稿の要点を捉えるとともに、その内容を基に事実や自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができる。

(3) 本時の目標（全8時間の単元指導計画中の第4時）

AIと言語に関する教科書の登場人物（生徒）たちの意見を基に、AI翻訳ツールについて自分の意見を書くことができる。

(4) 本時の展開

時間	○学習内容 ・活動内容	指導上の留意点・配慮事項
導入 7分	○前時までの復習 ・自分が作った Mapping やメモを確認する。	・前時までに自分が作成した Mapping やメモを確認させ、英文を書く際に戸惑わないようにする。
展開 38分	○本時の目標の確認 ○Try 1 ・自分が作った Mapping やメモを参考に意見を書く。 ・オンライン上に提示された習熟の程度に応じた記述のモデルを参考にしながら書き進める。 ○フィードバック ・書いたものを生徒同士の4人グループで読み合い、他の生徒の書いたものを参考に読み手にとって分かりやすい構成や表現になっているか、理由は具体的になっているかなどについて確認し合う。 ・教師による中間指導を受け、内容や構成を再度見直す。 【研究の柱②】協働的な学び ○他者参照による表現内容の質の向上 ○フィードバックの機会の充実による聞き手や読み手に配慮した内容への改善 ○Try 2 ・フィードバックで得たことを生かして再度自分の考えを書く。	【研究の柱①】個別最適な学び ○生徒一人一人の特性や学習到達度等に応じた指導の工夫 ○興味・関心に応じた発信したい内容の設定 ・書く際に、記述のモデルを生徒自身に選択させる。 ・自分たちが書いたものを互いに読ませることで、自分にはなかった考えや表現などに気付かせる。 ・生徒が読み合っている間、教師は机間指導をしながら必要に応じてフィードバックを与える。 例) 構成について、First や Second を使っているか。For example などを使って具体的に書いているか。など ・互いに読み合って気付いたことや教師からのフィードバックを受けて分かったことなどを参考にしながら再度自分の考えを書かせる。
まとめ 5分	○本時の振り返り ・フィードバックを受けて、自分の英文がどのように変容したかを振り返る。	

(5) 指導にあたって

ア 研究の柱①「一人1台端末等を活用した指導の個別化、学習の個性化」

- ・記述のモデルをオンライン上に示し生徒に習熟の程度に応じて学習方法を選択させる。

(生徒に示す記述のモデルの例) ※点線の枠線内は口頭で生徒に説明した内容である。

Step 1 (自分が賛同する人物と理由を選び、オリジナルの理由を 1 文加える。) I agree with (Tina / Kota / Hajin). I have () reason(s). First, • translation software is (). • AI devices can help with many (). • learning foreign languages is still (). Second, I think (). Step 2 (自分が賛同する人物を選び、オリジナルの理由を 2 文以上加える。) I agree with (). I have () reason(s). First, (). Second, (). That's why, (). Step 3 (語群を参考に、自分の意見を構成から考えて書く。) agree / disagree / first / second / third / thus / therefore / the reasons / above / for example / but / according to	賛同する人物に 合わせて 1 文選ぶ。
---	--------------------------------

- ・ 自分の意見を書く際の参考にするために、生成 AI の英文添削ツール等を活用して、自分の書いた英文に誤りがないか確認させたり、よりよい表現に修正させたりする。

イ 研究の柱② 「多様な他者との協働による、表現内容、表現方法の質の向上」

- ・ 書いた英文をオンライン上で全員で共有し、自分の意見を書く際の参考にさせる。オンライン上に全員分の入力フォーム（タブ）を用意し、それらを共有させることで自分が書くときに他の生徒が書いたものを参考にできるようにする。
- ・ 読み手にとって分かりやすい構成や表現になっているかという視点で書いた英文を互いに読ませ合ったり、教師から中間指導を与えたりして確認させる。

(6) 検証授業①における成果と課題

ア 検証授業①における成果

習熟の程度に応じた記述のモデルを提示したことで、どの生徒も自ら書こうとする姿が見られた。また、自分が書いた英文をグループで読み合い改善点を伝え合わせたことで、読み手に配慮した内容へと改善を図ることができた生徒が多くいた。例えば下の生徒は、Try 1 では教科書の登場人物に賛同する理由を二つ書いた。その後の協働的な活動で他の生徒からのアドバイスを受けた後の Try 2 では、2 点目の理由の順序をより効果的な流れになるように変更し、理由の 3 点目を加えてより説得力のある文章にすることができた。

(生徒の書いた英文の例)

Try1 I agree with Hajin. I have ①two reasons. First, I want to be able to speak English myself. Speaking English is very cool. Second, ②if I can speak well, I can work abroad. And I want to live abroad. Speaking foreign languages will become useful in the future. That's why I agree with him. Try 2 I agree with Hajin. I have ①three reasons. First, I want to be able to speak English myself. Speaking English is very cool. Second, ②speaking foreign languages will become useful in the future. If I can speak well, I can work abroad. And I want to live abroad. Third, Kota says, "Learning foreign languages might not be so important anymore." I disagree with Kota. Because it is not good to rely too much on translation software.
--

イ 検証授業①における課題

「誰に」、「何のために」、「何を伝えるのか」という目的や場面、状況などの生徒との共有が十分でなかったため、生徒がグループで読み合うときに互いにフィードバックする視点が定まらず、内容面での改善に向けて適切にフィードバックをすることができたグループが少なかった。特に今回の「書くこと」においては読み手が誰かという設定が重要であったが、その点を生徒に明確に示すことができなかったため、相手に配慮した内容で表現することに至らなかった生徒も見られた。

2 検証授業② 第2学年（「話すこと〔やり取り〕」の例）

(1) 単元名

Take Action Talk 4 「一緒に遊園地に行かない？」 *NEW CROWN English Series 2*（三省堂）

(2) 単元の目標

休日に友達と一緒に出かけられるように、休日の予定ややりたいことについて、事実や自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができる。

(3) 本時の目標（全2時間の単元指導計画中の第2時）

休日に友達と一緒にでかけるために、友達の興味を引き出せるように相手を誘ったり、相手の誘いに応答したりすることができるようになる。

(4) 本時の展開

時間	○学習内容 ・ 活動内容	指導上の留意点・配慮事項
導入 10分	○前時までの復習 ・デジタル教科書を活用して、相手の誘い方、誘いへの応じ方を復習し、習熟度に 応じた音読練習に取り組む。	【研究の柱①】個別最適な学び ○学習方法の工夫
展開 35分	○本時の目標の確認 ○3連休の予定を考え、相手を誘うイベント（場所、日にち）、誘い方を考え、ペアで実際に誘い合う。 ・ワークシートのStep1～3から会話のモデルを自分で選択し、内容を考える。 ○Try 1 ・4人グループを組み、その中でペアを組み、お互いに誘い合う。 ○フィードバック ・ペアワークの中から、相手の興味を引き出せているかという視点で良い例と改善が必要な例を板書して全体で共有し、より良い誘い方を考える。 ○) I think you will enjoy ～.など、相手の視点に立った表現が入っている。 ×) I like ～.など、相手の視点が入っていない。	【研究の柱①】個別最適な学び ○生徒一人一人の特性や学習到達度等に 応じた指導の工夫 ○興味・関心に応じた発信したい内容の 設定 ・モデル文の内容が多いStep1から、モデル文がほぼないStep3までを提示し、生徒自身に選択させる。 ・インフォメーションギャップのあるワークシートで取り組ませ、相手の発話に応じた英語でのやり取りになるようにする。 ・自分で考えたやり取りをお互いに見ることで、自分にはなかった表現などに気付かせる。 【研究の柱②】協働的な学び ○他者参照による表現内容の質の向上 ○フィードバックの機会の充実による聞き手や読み手に配慮した内容への改善

	○Try2 ・4人グループでペアを変え、フィードバックを踏まえて発話内容の改善に取り組む。 ・4人グループでペアのやり取りを見合い、相手の興味を引き出しているかという視点でフィードバックを行う。 ○Try3 ・4人グループでペアを組み直し、取り組む。 ・代表生徒2名が、即興でやり取りを行い、全体で共有する。	【研究の柱②】協働的な学び ○他者参照による表現内容の質の向上 ○フィードバックの機会の充実による聞き手や読み手に配慮した内容への改善 ・誘われる側のBは、あらかじめ休日全てに予定を入れ、自分の予定よりも誘われたイベントの方により興味がわいたら“Yes”と答えるという条件を加える。 ・誘う側のAは、相手に“Yes”と言ってもらえるように、相手の興味を引き出す誘い方を促す。 ・机間指導の中で良い発話をしていた生徒のやり取りを全体に発表させる。
まとめ 5分	○本時の振り返り ・相手の興味を引き出せるように相手を誘えたか、どんな英語表現を使用したかを振り返る。	

(5) 検証授業①の課題を踏まえた改善策

検証授業①では、生徒が自分の意見を書くことについての目的や場面、状況などを明確に示せなかったことが課題だった。これを受け、検証授業②では、生徒が言語活動に取り組む際に教師が目的や場面、状況などについてより明確に示すこととした。

(6) 指導にあたって

ア 研究の柱①「一人1台端末等を活用した指導の個別化、学習の個性化」

- ・ デジタル教科書を活用し、習熟の程度に応じて音読練習に取り組ませ、正確な発音、誘い方・応じ方の表現を練習させる。
- ・ 言語活動において、事実や自分の考えを整理し、自身や相手の興味・関心などに応じて、相手が自分の誘いに応じてくれるように誘う場所や誘うときの表現を工夫させる。
- ・ 習熟の程度に応じて、会話のモデルを選択させ、指導の個別化を図る。

(生徒に示す会話のモデルの例)

※ 本モデルでは、Aは相手を誘いたい場所やイベントとその魅力を伝え、相手の予定を聞いて一緒に出かける誘いをする。BはAの提案を聞いて、それに応じるかを答える。	
Step1 (誘う場所を選び、その魅力を伝えるオリジナルの1文を加える。)	
A: Hello, this is (自分の名前). Can I speak to (ペアの名前)?	
B: _____.	
A: Guess what? I have (amusement park tickets / restaurant tickets).	
_____.	
B: _____.	
A: Well, if you are free on _____, why don't we go together?	
B: _____.	
Step2 (誘うイベントは自分で考え、その魅力を伝え、相手が応じてくれる誘い方を考える。)	
A: Hello, this is (自分の名前). Can I speak to (ペアの名前)?	
B: _____.	

A : Guess what? I have _____.

B : _____.

A : Well, if you are free on _____, _____.

B : _____.

Step 3 (教科書や語群を参考に、やり取りの英文を全て自分で考える。)

Can I speak to ~? / Speaking. / Guess what? / I think you will enjoy ~ .
/ It is ~ for you to... / Why don't we ~ ? / together / Shall we ~ ? / Sure.
/ I'm sorry. I can't. / I'd like to. But ~ .

イ 研究の柱② 「多様な他者との協働による、表現内容、表現方法の質の向上」

- ・ 言語活動において、生徒が用いた誘い方や応じ方を全体で共有し、相手に配慮した表現になっていたか、また、相手が自分の誘いに応じてくれるように相手の興味・関心を引き出す表現になっていたかという視点で教師がフィードバックをする。加えて、生徒同士でもグループ毎に同様の視点でフィードバックをする。自分の発話に生かせる表現を考えさせた上で、再度、言語活動に取り組ませ、自分の発話内容がどのように変化したかを振り返らせる。

(7) 検証授業②における成果と課題

ア 検証授業②における成果

- ・ 習熟の程度に応じた会話のモデルの選択により、生徒は主体的に学習を進められていた。
- ・ 「友達と一緒に出かけのために、相手の興味を引き出して誘う」という目的や場面、状況などを明確に設定したことで、生徒が相手意識をもち、聞き手に配慮した発話とすることを意識することができた。
- ・ 発話内容について、誘う相手を意識した生徒同士でのフィードバックを通して、以下の生徒の振り返りにも記載があるような、相手に伝えることを意識して発話を工夫する生徒の姿が見られた。

(生徒の振り返りシートから)

- もっと具体的に表せるように、“There is an attraction.” で終わらずに、“There is a new attraction. You will enjoy it.” と表現を追加した。
- “I have two movie tickets.” からより具体的になるように、“I have two comedy movie tickets.” と変えた。
- グループの人の意見を踏まえて、相手にもっと興味をもってもらえるように、誘う場所の面白いポイントを伝えられるように工夫した。

イ 検証授業②における課題

- ・ 同じワークシートの中に、Step 1 から Step 3 までのモデルを載せていたので、Step 3 を選んだ生徒でも、Step 1 も見ながら取り組んでいる姿が見られた。生徒が自分の習熟に合った形で学習を進められるように、それぞれの Step のワークシートを別々に選べるようにするべきであった。
- ・ 「話すこと[やり取り]」の領域の活動を扱ったが、ワークシートの空欄に英文を記入する形のワークシートとしたため、生徒は上手に話すためにワークシートを読んで会話をしようとしてしまい、「即興性」に欠けるところがあった。
- ・ 発話を工夫する姿が見られた一方、生徒が言語活動に取り組んでいる際に、「どう表現

を変えたらより具体的になるか」「相手に配慮した発話内容にするにはどうすればよいか」等、生徒の発話の何を改善させるのか、教師が事前にフィードバックの視点を明確にするべきであった。

3 検証授業③ 第2学年（「話すこと〔発表〕」の例）

(1) 単元名

Unit 4 “Homestay in the United States” *NEW HORIZON English Course 2*（東京書籍）

(2) 単元の目標

海外から転入してくる同級生に日本の習慣やマナーについて知ってもらうために、事実や自分の考え、気持ちなどを整理して簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができる。

(3) 本時の目標（全8時間の単元指導計画中の第3時）

来月、海外から転入してくる韓国人のキムさんが中学校での生活に困らないように、キムさんに学校のルールを分かりやすく教えることができる。

(4) 本時の展開

時間	○学習内容 ・ 活動内容	指導上の留意点・配慮事項
導入 10分	○導入 ・クイズを交えながら、韓国でのマナーや習慣について知る。	・韓国でのマナーや習慣を知ること、中学校でのルールを伝える上での参考にさせる。また、助動詞の使い方についても再確認させる。
展開 35分	○本時の目標の確認 ○学校ルールの説明文を書く ・ワークシートの Step1～Step3 から自分にあった発表のモデルを選び、一人1台端末の英文チェック機能を活用しながら学校のルールを詳しく説明する英文を書く。 ・一人1台端末の英文読み上げ機能を使用して練習し、個人で作成した英文を読むことができるようにする。 ○Try 1 ・3人グループで発表した後に、そのグループで振り返りを行う。 【研究の柱②】協働的な学び ○他者参照による表現内容の質の向上 ○フィードバックの機会の充実による聞き手や読み手に配慮した内容への改善 ○フィードバック ・教師が生徒の数名を指名して発表させ、良かった点を全体で共有する。 ・個人で原稿を修正し、工夫した点などを一人1台端末上に記入する。	・Step 1～3の発表のモデルを作成して、各生徒の習熟の程度によって生徒の参考にさせる。 【研究の柱①】個別最適な学び ○生徒一人一人の特性や学習到達度等に応じた指導の工夫 ○興味・関心に応じた発信したい内容の設定 ・記録動画を撮影させる。 ・発表ごとにグループで感想を共有し、以下の視点から改善点を伝え合う。 ①中学校での生活に困らない、役に立つ内容であったか。 ②内容が分かりやすく、理解・納得ができるものであったか。 ③これから来る転入生が前向きに学校生活を過ごすことができる内容であったか。 ・教師は机間指導を行い、改善の視点を踏まえて内容面でフィードバックを行う。

	○Try 2 ・再度3人グループで発表する。	・グループの生徒に修正ポイントを伝えてから発表させる。 ・記録動画を撮影させる。 ・改善の視点を再度全体で確認し、Try 1 と Try 2 の発表の変化を伝え合う。
まとめ 5分	○本時の振り返り ・自分の発表動画を見直し、変容を振り返る。	・撮影した動画は教師へ送らせる。

(5) 検証授業②の課題を踏まえた改善策

検証授業②では、教師から生徒や生徒同士でのフィードバックの際の視点が十分に共有されていなかった。そこで、今回の検証授業③では、導入で今回の授業の目標や、目的や場面、状況などを教師と生徒が英語でやり取りをする中で確認するとともに、生徒同士でフィードバックする際の視点を明確に示し、いつでも生徒が確認できるようにモニターに常に映すようにした。そうすることで、生徒は目標が何かを意識しながら活動に取り組むとともに、フィードバックの視点を踏まえて、相手に改善点を伝えられるようにした。

(6) 指導にあたって

ア 研究の柱①「一人1台端末等を活用した指導の個別化、学習の個性化」

- ・一人1台端末を効果的に活用して、自分が話したいと考えている英文の発音が分からない場合に、英文読み上げ機能を利用させる。
- ・作成したルールに関するポスターを説明する英文をつくるときに、生徒の習熟の程度に応じて、発表のモデルを用意し、生徒に選択させて発表内容の準備を進めさせる。

(生徒に示す発表のモデルの例)

Step 1 (相手に伝えるルールを選び、そのルールがある理由等を考えて加える。)

Hello. I'm ○○.
 I'll tell you the rule of junior high school.
 You have to (take your shoes off / wear the school uniform)
 (when / because) you ○○.
 You must not (wear earrings / be late / run) because○○.

Step 2 (相手に伝えるルールを考え、そのルールがある理由等を考えて加える。)

Hello. I'm ○○.
 I'll tell you the rule of junior high school.
 You have to ○○○○.
 You must not ○○○○.
 ○○○○. ※何か転入してくるキムさんに一言。

Step 3 (教科書や語群を参考に、説明する内容を全て自分で考える。)

have to / don't have to / must / must not / because / when / if / school rules / for example / take your shoes off / wear school uniform / dye hair / come to school by ~

- ・ポスターを作成する際に、紙（アナログ）か一人1台端末（デジタル）かを含めた学習課題を生徒に選択させたり、生徒の関心に合わせて何のポスターにするのかという内容を生徒自身に決めさせりして、生徒に自分に合った学習課題を設定させる。

イ 研究の柱② 「多様な他者との協働による、表現内容、表現方法の質の向上」

- ・Try 1 の発表の後に、教師から生徒または生徒同士で、発表が目的や場面・状況などに

応じた適切なものになっているか、具体的な観点を示してフィードバックを行う。意見交流の際に気付いたことやグループで出た意見をメモし、発表内容の改善につなげる。また、どのような点を改善しようとしたかを Try 2 の発表の前に伝え合うことで、工夫の仕方についても共有する。その後 Try 2 の発表を同じグループで行い、どの程度改善されたかを相互評価させる。

(7) 検証授業③における成果と課題

ア 検証授業③における成果

- ・ 生徒が自分の習熟の程度に合わせた発表のモデルを自身で選択することで、モデルを参考に内容を考えたり、より自由に伝えたい内容を考えたりする様子が見られるなど、活動に取り組むことへの意識が高まっていた。
- ・ 聞き手がどのようなことをポイントに聞き取るべきかを常に生徒の目に入るところに掲示し、明確に提示したことで、教師が意図したとおり、発表の内容面に焦点を当てて、グループでのフィードバックや、自身の発表の振り返りを行うことができた。
- ・ Try 2 を行う際に、どこを修正したのかを生徒自身に話させてから発表を行った。ある生徒は「キムさんが中学校により来たいと思うように工夫をした。また、自分が同じだったらどのようなことが知りたいかを考えて、分かりやすくなるように工夫をした」と述べた。実際に下の発話例のとおり、①を分かりやすい表現としたことや、②を追記して相手に安心感を与えるようにしたことなど、より相手意識をもった発話が見られた。

(生徒の発話例)

Try1

I'll tell you the rules of junior high school. You mustn't bring sweets and snacks because you don't need it to study. And you have to take your ①chromebook every day because you use it to study. I'm looking forward to seeing you.

Try 2

I'll tell you the rules of junior high school. You mustn't bring sweets and snacks because you don't need it to study. And you have to take your ①computer every day because you use it to study. ②Do you have any questions? Please ask me! I'm looking forward to seeing you.

イ 検証授業③における課題

- ・ 原稿作成の際に紙のワークシートか一人 1 台端末かどちらを使用するか選ばせたが、英文の読み上げ機能や添削機能を使用させる際は一人 1 台端末で作成した場合の方がスムーズであった。デジタルかアナログかを選択させることは学習の個性化には必要ではあるが、教師側が設定した目的によっては、どちらかに限定させる手だても必要であった。
- ・ 教師による中間指導で、教師が意図した改善点が生徒に伝わらず、内容面とは異なる点に意識が向いている生徒が見られた。生徒が改善点を伝え合う場面で生徒から出た具体的な改善のポイントを中間指導の中で控え、生徒とのやり取りなどを通じて全体で共有するなどの指導の工夫を行う必要があった。

VIII 研究の成果と課題

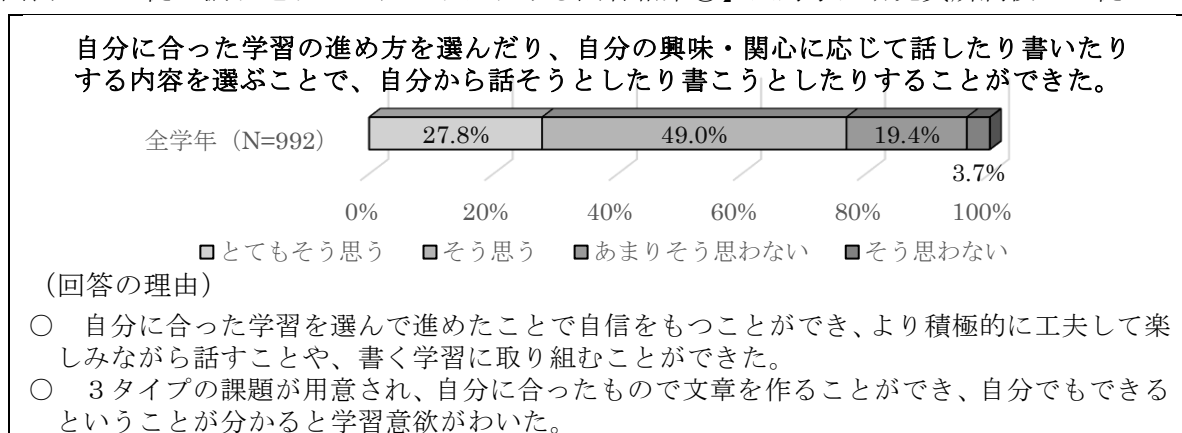
1 研究の成果

(1) 研究の柱①「一人1台端末等を活用した指導の個別化、学習の個性化」の検証

生徒がコミュニケーションの目的や場面、状況などを踏まえながら、自分の興味・関心に応じて伝えたい内容を考えられるようにする中で、教師が生徒の習熟の程度に応じて3種類に分けた「Step1」「Step2」「Step3」の発話や記述の流れのモデルを示し、生徒自身に選択させることで、生徒たちが積極的にアウトプットに取り組むことができた。

本研究では、大半の生徒がこうした取組を肯定的に受け止め、自分に合った方法で学習を進めることを目指したところ、授業実践後に行った生徒の振り返りからは、これらの取組についての肯定的な回答が75%以上を占め、以下のような生徒の声が得られた。

【図表1 生徒の振り返りアンケートにおける回答結果①】※対象は研究員所属校の生徒



以上のことから、コミュニケーションの目的や場面、状況などを踏まえて生徒自身が興味や関心をもつ内容を表現させる中で、習熟の程度に応じた取り組み方を選べたりするようにすることで、英語に苦手意識をもつ生徒にも安心感を与え、生徒がより積極的にアウトプットしようとするようになったと考えられる。

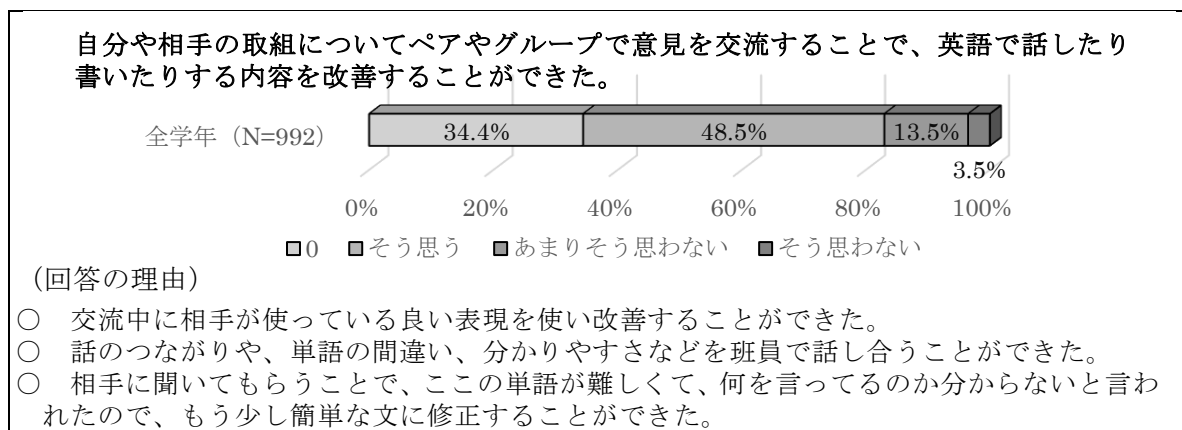
(2) 研究の柱②「多様な他者との協働による、表現内容、表現方法の質の向上」の検証

言語活動を行う中で、目的や場面、状況などを踏まえ、内容の分かりやすさや、伝える相手を意識した内容となっているかなど、改善を図る視点を示し、教師から生徒または生徒同士でのフィードバックを効果的に行った。このことにより、生徒は伝える内容を、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを踏まえ、聞き手や読み手に配慮した分かりやすい表現内容や表現方法に工夫する姿が見られた。

例えば、他の生徒からのアドバイスを受けて、「書くこと」を扱った検証授業①では、読み手に分かりやすい語彙に修正したり、英文の順序を相手に分かりやすいように変更したり、理由を加えてより説得力のある文章にしたりする生徒の姿が見られた。また、「話すこと〔発表〕」を扱った検証授業③では、聞き手を意識して相手に問いかけるような表現を追加したり、理由を詳しく述べ、より聞き手が理解しやすいようにしたり、客観性のある表現で相手に伝えるようにしたりする生徒の姿が見られた。

こうした協働的な学びの機会の充実を図ることにに関して、生徒の振り返りからは、次ページのように、内容を改善することができた肯定的な回答をした生徒が80%を上回った。

【図表 2 生徒の振り返りアンケートにおける回答結果②】※対象は研究員所属校の生徒



生徒の記述からも、生徒同士でアドバイスを伝え合ったり、オンライン上で英作文等を共有し参照できるようにしたりすることで、様々な意見や考えを取り入れ、表現の質の向上につなげることができたと言える。

2 研究の課題

(1) 研究の柱①「一人1台端末等を活用した指導の個別化、学習の個性化」について

今回の授業実践では、生徒の表現力を高めるための多様な学習方法として、デジタル教科書や英文の読み上げ機能の活用等に取り組んだが、一斉に行うことによる音声の重なりや一人1台端末への入力の手間などにより、生徒の効率的な学習につながらない場面もあった。指導の個別化を進めるため、生徒の実態を踏まえ、活動の目標や内容に応じた効率的・効果的な学習方法を生徒に提示していくことが今後の課題である。

また、本研究では、学習の個性化として、モデルに自分の発信したい内容を加えることに取り組んだが、生徒によっては「伝えたい」ことよりも「伝えられる」ことを優先して伝える状況が見られた。生徒自身が自分の興味・関心等に応じて伝えたい内容や伝える方法を工夫できるよう、言語活動の内容の工夫を図る必要がある。

(2) 研究の柱②「多様な他者との協働による、表現内容、表現方法の質の向上」について

今回の授業実践では、他者参照や生徒同士のフィードバック等の協働的な学びについて、限定的な場面で時間配分や活動形態を教師が決めて進めた。協働的な学びを一層効果的なものとするため、より多くの場面で、他者参照をしたり、ペア・グループなどで対話的な活動をしたりしながら生徒が学習を進められるようにする必要がある。

また、目的や場面、状況などを踏まえているか、聞き手や読み手に配慮しているかという内容面について互いにフィードバックするべきところで、声の大きさや発話の際の視線など、教師側の意図した改善点とは異なる内容を伝え合う生徒が少なからず見られた。協働的な学びの場面で生徒相互のフィードバックを効果的なものとするためには、具体的なフィードバックの視点を明確にして改善点に気付かせる方法を一層工夫する必要がある。

本研究の実践を踏まえ、今後も「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る授業を実践し続けることで、聞き手や読み手に配慮したアウトプットができる生徒を育成していきたい。

令和6年度 教育研究員名簿

中学校・外国語

学 校 名	職 名	氏 名
目 黒 区 立 第 一 中 学 校	主幹教諭	椿 恭 子
豊 島 区 立 巢 鴨 北 中 学 校	主任教諭	山 口 太 義
練 馬 区 立 貫 井 中 学 校	主任教諭	◎遠 藤 康 子
練 馬 区 立 石 神 井 西 中 学 校	主任教諭	中 村 大 樹
江 戸 川 区 立 南 葛 西 第 二 中 学 校	主任教諭	長 嶋 昌 子
八王子市立いずみの森義務教育学校	主任教諭	関 谷 礼 子
立 川 市 立 立 川 第 九 中 学 校	主幹教諭	榊 克 敏
武 蔵 野 市 立 第 五 中 学 校	主任教諭	坪 田 千 尋
調 布 市 立 第 七 中 学 校	主任教諭	内 田 章 子
東 大 和 市 立 第 四 中 学 校	主任教諭	谷 川 研 嗣

◎ 世話人

〔担当〕 東京都教育庁指導部義務教育指導課
指導主事 鈴木 悠平

令和 6 年度
教育研究員研究報告書
中学校・外国語

令和 7 年 3 月

編 集 東京都教育庁指導部指導企画課
所 在 地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号
電話番号 (03) 5320—6849